

HSK

どうじん

第 35 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻230号

発行日 平成3年6月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北13条西1丁目
神原義郎

平成3年 初夏号

特集 透析患者さんのクオリティオブライフ



十勝地方腎友会 佐藤武夫さん撮影

北海道腎臓病患者連絡協議会

第22回全腎協（全国）総会 明年5月札幌開催に当って

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



平成2年度における道管内の透析人口が5,000人近くにもなりました。増え続ける透析人口がこのまま推移すると透析施設の不足が目立ち、とりわけ地方ブロックではこの傾向が顕著に表れて参りました。

腎移植が少ない道管内においては、透析人口が減少することは考えられず、地域毎の透析も

むずかしくなつて大きな社会問題として懸念されます。

こうした状況下のなかにあつて、明年5月24日（日曜日）札幌市教育文化会館（北1条西13）で1,000人規模の総会が開催されることに決定し、目下その受入準備で行政はじめ透析医会の先生方とも折衝をすすめております。

総会会場、宿舎、前夜祭の交流会会場等については、ほぼ決定はしましたが、道外からの250余名の会員が来道するとあつて、総会当日終了後の午後4時30分より開催地札幌での夜間透析を各先生方にお願ひしております。

ます。

なお、当日は日曜日の休日ともあつて、先生をはじめ職員の労働条件も加わり難しい状況であることは重々理解できますが、全国患者会の総会でもある旨の趣旨を説明し、ご協力を得たいと思ひます。

既に四国松山からは大挙して116名（うち透析者80名）が、また九州鹿児島からも50名、東北方面からも50名等々の申込があります。

北海道での開催は、春の観光旅行のシーズン幕開けともあつて、出席者数も大勢で、この際、北海道の総会と兼ねて、来道される方で盛大な総会になるであろうことが予想されます。

道内の透析なかまの皆様も、当日はご出席下さつて応援して下さい。当日はボランティアとして、会員なかまをはじめ各病院の皆様、一般の方々、大学生の皆様のご協力をお願ひすることとしております。

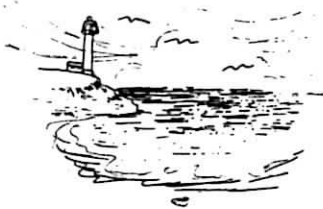
なお、当日は全体総会終了後に引き続き午後から分科会「医

療」「腎移植CAPD」「高齢化要介護者問題」「生活社会復帰」「会活動」の5分科会が予定されておられ、会員の方にはその希望する分科会に出席していただくことになっております。

北海道での第22回総会が会員なかまのふれあいの場として皆様の総力によつて是非成功させたいものです。

なお、当日は北海道知事横路さんもおみえになり、ごあいさつを頂く予定になっております。

会員なかまの皆様のご協力を切にお願ひ致します。



第30回道腎協ブロック会議開催される

平成3年4月13・14日の両日、

札幌市の北海道難病センターにおいて、役員・役員代理・事務局員合計32名により、第30回のブロック会議が開催されました。

開会后、役員及び同じ仲間の逝去を悼み全員で黙祷を捧げ冥福を祈りました。

岩崎会長の挨拶では、「患者さん



は孤独に陥る事が多いので、励まし合い、助け合って行きましょう」というお話しでした。

札幌腎友会の棧氏を議長に選出して議事に入って行きました。

1 報告事項

(1) 各ブロック活動報告

(2) 全腎協第60回幹事会報告

(3) 全腎協第22回総会北海道大会準備状況報告

○新規透析施設開設の報告もありましたが、地域によってはベッドが満床の所が多い。

○いくつかのブロックでは、身体障害者に対するタクシー補助券の増加、または要望を行っている。

2 討議事項

(1) 第14回定期総会議案書について

①平成2年度活動報告

②平成2年度決算・監査報告

③平成3年度活動方針案

④平成3年度予算案

⑤スローガン・総会宣言案

⑥規約改正について

⑦平成3年度役員候補案

○若干の質疑の後承認されました。

(2) 組織強化月間について

○道腎協独自の会員拡大PR版を作成する。

(3) 道への腎疾患総合対策確立について

○超党派で道議会に請願行動を実施する。

(4) 事務局員の退職について

今回のブロック会議でも各ブロック役員の方が活発に討議され、沢山の意見が提出され無事終了しました。

2日連続、休憩も少ない中、役員の皆様お疲れさまでした。



道腎協専門委員会報告

この専門委員会は、4月14日午前9時から10時半迄、3つの専門委員会に各役員が役割分担して討議されたものです。

1 組織・財政委員会

委員長 堀井 和彦

〈主な意見を集約しました〉

○会員を増やすには、老人・収入

の少ない人の会費を減免してはどうか。

○ブロック会議にオブザーバー参加をどしどししたい。

○各ブロックから要請があれば道腎協の役員を派遣する。

○役員研修会を開催して欲しい。

○その参加旅費を補助して欲しい。

○夕張では市から補助金をもらっている。

○企業回りをして、協賛会員を募集したらどうか。

2 腎疾患総合対策委員会

委員長 上田 弘

出席者 上田 弘ほか7名

【審議項目】

2-① 「腎疾患総合対策」の早期確立をめざし、全腎協

第21次国会請願署名募金運動に取り組みます。

3-① 医療・福祉に関する要望事項実現のため、道庁・道議会・その他の関係機

関に対して、陳情・要請行動を行います。

3-② 「腎疾患総合対策委員会」設立運動を進めます。

請願署名活動は、全道一丸となり取り進む。

各種請願・要望行動を行うには、事前の対応として、懇談会とか打ち合せ会を医師会・行政・議会議

員その他を含めて行うこととする。

〈道内各地区の状況〉

○透析施設・器械台数が不足しているため、施設によっては透析時間の短縮で対応している。

例 従来 5時間透析を、4時間になる。

4時間透析だったのが、3時間となった。

○CAPDへの移行は、効率・年数の関係で不安がのこる。

○4時間透析が主流となっている。

○患者さんに、短時間透析の良い点、悪い点を機関紙などで啓蒙する。

あとは患者本人の判断により、先生などと相談する（検査データの推移が問題である）。

○道腎協では、施設・器械の増設運動を展開する。

○道腎協で設置を要望している腎疾患総合対策委員会の組織上、出身校などの関係で、医師の参加は難しいのではないかと。

○特に、地方段階では、委員会を作ってもうまく機能しないのではないかと。

○検尿の実施に力点をおき、腎対策を進めてはどうか。

○検尿の実施に力点をおき、腎対策を進めてはどうか。



組織・財政委員会



腎疾患総合対策委員会



広報・調査委員会

○行政側から、医師会等に積極的な検尿への対応を行うよう、申し入れる姿勢を持たせる働きをしなければならぬ。
 ○透析医は、腎臓病に対する予防については、なかなか取り組めないのではないか。
 ○検尿は、地味な運動だけれども、健康管理のうえからも、行政を動かす必要がある。
 ○透析予備群に対するホローが良好とは思われない。特に、食事関係での指導は形式的で、実益ある対応となっていない。

(ポイントだけを、目で見て、実感でわかる指導をしてほしい)。
 ○透析施設について

◆江差地区に15人程度の透析患者がいるが、転院してまで透析を受けるかは疑問がある(喜んで転院するとは思われない)。
 ◆美幌の国保病院で透析を実施するよう、町議会で決議されたいようです。

3 広報・調査委員会

委員長 鈴木 啓三

参加者10名で協議しまして、次の様な結果になりました。

① 腎登録者拡大キャンペーンについて

○この10年間々盛大になってきているが、マスコミや行政への働きかけがまだまだ足りないのでは

○各市町村の広報紙への腎バンク登録を訴える記事を掲載していたら運動を再開した方が

○各ブロックの取り組みの資料がほしい。

② 機関紙「どうじん」について

○良く出来ていると思う。

○報告記事が多すぎて、かたい感じがする。

○マンガ・イラスト等を使って、紙面をやわらかく分かりやすくする。

○透析の知識等の新シリーズを考えてほしい。

○入会案内を「どうじん」にも掲載してほしい(患者会の歴史等を使う)

③ その他

各施設の医師やスタッフに、腎バンクや患者会を理解してもらう運動が大切ではないか。

全腎協第60回幹事会報告

全腎協幹事 札幌腎友会

川村 隆志



の様に改正されます。

① 外来 1ヵ月8000円→1,0000円

② 入院 1日4000円→ 8000円

また一般患者の負担については、医療費の伸び率に合わせて引上げていくスライド制が導入されます。

◆腎移植体制について

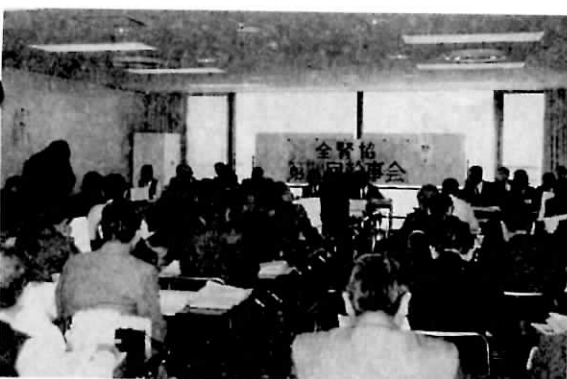
地域に密着した腎移植を進める為『都道府県腎移植推進・情報センター』を設置し、その運営に要する人件費及びコンピュータの設置費(16ヵ所)が確保されました。

◆腎不全対策の推進について

平成3年3月9日〜10日に開催された第60回幹事会の討議内容について、報告致します。
 ◆老人保健制度の改正について
 各層で負担を分かち合う考えから老人(70歳以上)医療費が次



透析患者は現在10万人おり、年々7、8千人ずつ増加しているが、死体腎移植は200例程度と少ない為、移植のより一層の推進を図る必要があるということでした。また、在宅でできる透析（CAPD）により透析患者の「生活の質」が向上しており、今後腎不全対策は、『総合的かつ効率的』な対策について調査審議するという厚生省の考え方について報告がありました。



とであり、今後の動きを注意深く見ていかなければなりません。
◆高類療養費自己負担限度額改正について

一般通常においては、現行5万7千円から6万円に引き上げられますが、特定疾病の透析に係る限度額1万円については据置となりました。

◆全腎協結成20周年記念事業

記念総会は5月25・26日の両日、東京にて開催されます。この総会には、北海道からも多数参加し、第21回総会・公開トーク・国際シ

ンポジウム・レセプション「感謝のつどい」等の内容で行われます。

また、20周年記念誌『全腎協』20周年記念号の発行、患者実態調査、ビデオの制作と盛り沢山の催し物が予定されています。

以上幹事会の報告をさせていただきます。

3月26日

第20次全国国会請願報告

道腎協幹事 佐藤昌夫



旭川を出る時、道路に雪がなく、いよいよ春が近くに來たと言う感じがしましたが、飛行機から下を見ると一面雪が残って居ります。きつと街だけが暖かいんでしょう。色々な事を考え、久しぶりの空の旅を満喫していたら、羽田雨で8度とアナウンスが流れて來まして、

いただきましたが、今回をもちまして、全腎協の幹事を退任させていただきます。今後は道腎協事務局次長として貢献致しますので、皆さんのご協力よろしくお願い致します。

やはり日本列島の長さを感じました。羽田に着いてから、教えられた知識と地図をニラメッコ。さらに駅では改札の人に聞き、私の知っていた東京とは交通事情が大変り、半蔵門の宿につくのには、2時間近くも掛かってしまい、後から來た夕張の三浦さんと食事に向へ出たら、みんな閉店。ついに欠食で床に付きました。この不運は翌日も引継ぎ、不慣れの関係もあろうが東京の不便な面だけを充分あじわいました。それでも集合場所の衆議院第二会館で、痛々しく首にギブスを付けた廣岡副会長に会っ



全国から請願につめかけた人達

た時は、地獄に仏に会ったような気がしました。手術で参加されないとあきらめていただけに、本当にうれしく又このギブスは事後の行動に目印として助けられました。

当日の請願集会は、浜田卓二郎社労委員長の手配により、衆議院第二会館の会議室で行われました。全腎協小林事務局長から今日一日の行動スケジュールや、その他資料説明が有り、午前11時から小林事務局長の司会で油井会長のあいさつ、来賓あいさつと続きましたが、これは各党の衆参両議員18名

の心強いあいさつでした。火曜日は定例の社労委開催日だそうで、忙しい中での御出席だったと思います。その為か遅れて見えて御挨拶を頂いた議員の方も2名居りました。話の中から党のPRも多少有りましたが、県腎協の顧問の方も居られ、考えていた以上に理解をしていただき、有料道路の無料化に努力している等の中味も有りました。患者会は138名でしたが、秘書の方々も会場内の周囲に用意した椅子に座り切れず、大勢立って参列しておられ、どの議員の秘書か紹介がされました。続いて小関副会長から請願の趣旨説明が有りましたが、今年第20次の国会請願になりますので、ビデオとりをして居りますので、午後の各議員への請願行動にも同行したグループも有り、収録後、各都道府県へ送付するとの事で全腎協活動の啓蒙に利用して欲しいとの事でした。食事後、本道出身の社労委員へ各議員の部屋へ署名書を持って請願して廻りました。廣岡さんの慣れた行動企画で、まず参議院議員会館へ田中・対馬両議員室へ、次に第一衆議院議員会館の池端・



伊東・今津・中沢議員の各事務室へ、最後に衆議院第二議員会館に戻り、児玉・武部両議員に会いに行ったのですが、地元の選挙も重なったせいか、残念ながら議員本人とはどなたとも会えず、秘書の方々に趣旨説明をして署名簿をお渡しして来ました。大方の方は、集会の時、内容は聞いたので理解してしますので、代議士に渡すとの事でした。なお、署名数は今年は最多で75万名だそうでした。

議員会館へ行き、部屋を訪れる時は警備の為にしよう、ロビーで

面会用紙に所定の記入をして窓口に出し、窓口と議員室と電話連絡してもらい、許可証を発行され入館出来るシステムになって居り、大変嚴重なものでした。最後に行動成果の報告書を全腎協に提出し帰路に着いた訳ですが、飛行機に乗り、やつとホッとしました。椅子にすわり過ぎた2日間を振り返り、20年前全腎協を結成の為、生きる事の出来る成果を期待し、手さぐりで行動したのであろう人々の道が実感的に理解出来ました。今漫然と無料透析を受けて居ります、痛みを伴う時代が来る事が推測される現在、今がっつりと基盤強化の為、組織拡大に努力する必要性があると、しみじみ感じました。意義を感じた国会請願報告が充分では有りませんが、読まれた方々に少しでも御理解が得られれば幸いです。

(尚、今回の請願は5月に採択され、内閣に送付されました)



透析患者さんのQOL「クオリティオブライフ」

光星泌尿器科医院

院長 上戸 文彦 先生



日本の透析治療と患者さんの動きを見ますと、1989年の透析患者さんの推定総数は9万6、378名となる様です。この原稿を書いている1991年は10万人を確実に突破していると思います。これら患者さんの特徴は、お年寄（65歳以上）と糖尿病が原因の比率が高くなって居ることです。お年寄についてみますと、1980年は全患者さんの9・8%であり

ましたが、1989年には20・8%と大きく増加して居ます。又、糖尿病の患者さんは1989年に透析に入った割合は26%となり4人に1人は糖尿病が原因です。それ以外に長期に亘って透析を受けている患者さんの合併症（骨や関節の痛み）のために社会復帰の割合が伸び悩みとなって居ります。今世間で流行っている言葉にQOLがあります。QOLを日本語では「生活の質」となります。これは日本人の生活の力が良くなって来て、唯働いただけでなく個人の生活が充実して来た証拠です。むずかしく定義しますと、身体的安定、精神的安定、社会的安定の3つの要素を有して居ります。即ち、個人の生きがいや生活の充実感、

又は社会的に暮らしやすい快適な生活環境が存在することです。振り返ってみますと、私共が透析を始めた頃は殆んど患者さんは入院が必要で、外来で透析が出来る様になるまで長い時間が必要でした。技術的、又透析の器械の力が弱かったため、患者さんは今では考えられない程水分制限と食事療法が大切でした。然し、現在の透析方法は格段に進歩しました。透析液は酢酸液から重曹に代り低血圧は少なくなり、その他の自覚症状も少なくなりました。透析器械は計画的に水を除く装置がくみ込まれて居て、増えた水分は間違いなく除かれます。透析膜も尿毒症の原因となる物質を今迄以上に除く能力を持つて居ります。以上の結果、患者さんは安心して毎日透析を受けられて居られると思います。現在、最も長く透析を受けて居る患者さんは20年を超えました。

今迄はいかに患者さんと長く透析できるかを目的に治療が行われて来て、患者さんのQOLはどちらかと言うと犠牲にされる傾向でした。然し患者さんの増加と透析年数の伸長は、QOLの重要性を問題としなければならぬ時代になりました。そこで近畿大学の先生達は、透析患者さんが同じ年代の健康な人を100とした場合、どの位満足して居るかをいろんな項目について自分で評価してみたアンケート調査結果では、食事の制限、いろんな合併症、社会復帰、職場の環境、収入、運動能力、将来への不安、これら全ての項目について全患者さんは最低30%から最高80%にQOLを妨げる原因が影響して居ます。又腎移植への望みは全般的に高いですが、移植を希望しない人（移植への不安、お年寄、合併症をもつため）も多く、QOLの面からも移植に対する積極的な気持ちが必要ですと述べて居ます。短時間透析は透析患者さんのQOLの改善と、透析施設を有効的に利用する目的で1980年代から米国で研究されてきました。米国では特に透析は学術的研究より

も社会的又は経済的な制限を受け
て居ます。現在、世界中で透析生
活を行って居る人はほぼ40万人で
す。3時間透析は始めからハイパ
ホーマンス膜（高性能膜）の導入
と一緒に取り入れたのでなく、8
時間以内で二交代の透析を行うた
めに必要とされたのです。若しこ
の短時間透析が行われるとすれば、
透析に必要な人的資源は半分にかッ
トできます。透析施設の返済は非
常にきびしく制限されているため、
その生き残りの唯一の方法です。
同じ理由で透析膜の再利用も行わ
れて居ります。短時間透析による
患者の必要を満足させるためには、
高率のよい大面積の透析膜が必要
です。これと同時に血流量と透析
液流量も大きく増加させることが
重要です。不幸にして多くの患者
さんは経済的又は社会的理由で不
適当な透析を受けて居る状態です。
一般に米国では少なくとも多くの
患者さんは、透析不足の状態が生
きています。又、不必要な食事及
び水分制限が患者さんに強要され
ています。更に患者さんの死亡率
や罹病率が高いため、結果として
透析患者さんのQOLが貧弱です。

一方、短時間透析（3時間以下）
が現在行われている標準透析（4
～6時間）に比べて劣って居ない
のではないかと、又患者さんのQOL
を上昇させるため、短時間透析
が試みられて居ります。但し、短
時間透析を行う為には条件があり
ます。即ち標準透析と同じ位、尿
素窒素やクレアチニンが除くこと
が出来ると、 β_2 MGのようなやや
大きい物質も同様に除くことができ
ることです。その為には性能の
良い透析膜を使って、血液流量を
1分間300cc以上で流し、透析
液は重曹液を使い、且つ透析の器
械には除水をコントロールする装
置が組みこまれていることです。
従って、全透析患者が短時間透
析できるわけではなく、体重コン
ロールの良い人、重症な心臓の病
気を持っていない人、シャントの流
れが充分な人に限られます。更に短
時間透析が行われてから時間が短
いので向後充分検査を行いながら、
長い目で見る必要があります。向後科
学の進歩もめざましく、透析の器械
及び透析膜の発達によって、透析患
者さんのQOLの増加の道をとる
ことは間違いないと思います。

フック便利

留萌フック

平成3年度定期総会開催される

日々に春の陽差しが強くなって
まいりましたが、道腎協会員の皆々
様、ご機嫌いかがでしょうか。

さて、今年度も去る4月7日（日）
に、留萌市の共同福祉センターに
於いて、本会の定期総会が行われ

ました。出席者は26名でした。
今年も当然の事ですが、昨年の
反省をふまえて、どのようにこれ
からの活動に活かして行くかに論
議の焦点がしぼられました。

まず、会長の挨拶の後、私の司
会で議事の方に入り、昨年度の活
動報告及び収支決算報告、監査報
告の後に全会一致で承認されまし
た。

昨年度の反省事項として、行事
等に対する協力体制がかならずし
も良好ではなかった事、役員（会
長や副会長、会計）の仕事の負担
が大きい事、現状の会費では、会
の運営維持が大変な事、新規透析
者の透析に対する自覚が不足して
いる事などが反省点として出され
ました。

中でも昨年、参加者不足で開催
できない行事もあり、対策を協議



する事となりました。

続いて今年度の活動方針及び予算案が提案され、昨年度の反省を踏まえて、行事の専任役員を少数(12名)設けて、主な仕事を、空いている会の役員同士共々連絡をとりながら行っていく事とし、今まで透析時間や体の不調などで、一泊旅行に参加できなかった人のために、日帰り旅行を新しく行う事となりました。

それに会費の値上げが見送られることとなり、行事等は自粛して行う事とし、行事等もただ遊ぶだけでなく、会員の勉強の場として活用すべきではないかという意見も出されました。

その他、国会請願の募金問題、羽幌道立病院へいつ頃、全員移れるかなど意見が出され、今後、道腎協、全腎協や、道立病院等に働きかけていく事となりました。

本会も設立16年を迎えて多少、マンネリ化も否めない所もありますが、今後会員一人一人が、自身自身の問題として、会活動を強く考えて行かないと、続けていく事は大変です。これは留萌だけの問題だけではないと思います。

この後、昼食後、日刊留萌新聞より、会の詳細について取材を受けました。最後に、この会議にも出席され、会員の質問にもいねいに受け答えをされていた。池田会長が、翌日4月8日に交通事故にあわれ亡くされました。

池田さんの御功績に感謝の意を表し、心よりご冥福をお祈りします。

今後は故氏の意志をついで、留萌腎友会活動を続けて行こうと思います。

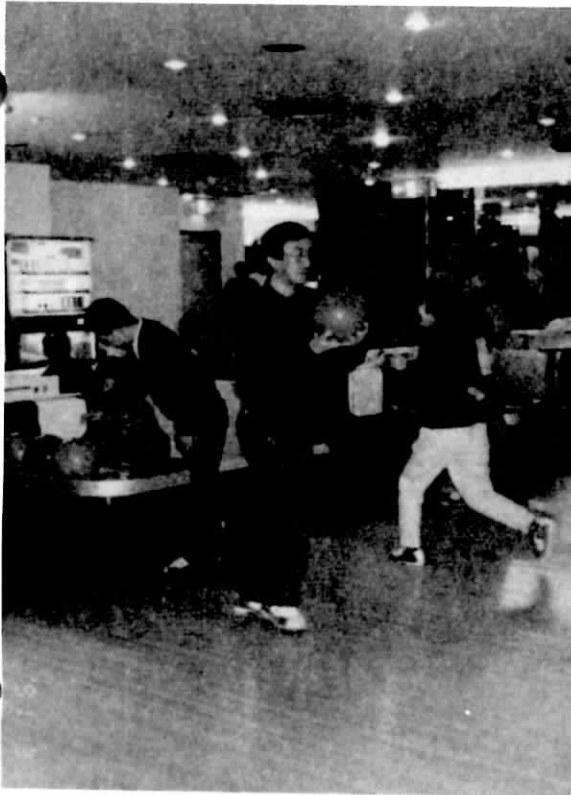
(報告：副会長、豊島)

札幌ブロック

ボウリング大会

恒例のボウリング大会が、今年も行なわれました。

例年より少し遅れ、3月3日(日)に行なわれた。



平成3年3月3日という希な日に行なわれたので、ラッキーナンバーを3という事にしました。(実行委員長の独断で決めました、ハイ)

鈴木会長の挨拶のあと、ゲームが開始されました。

ゲームは一人2ゲームで行なわれ、ゲーム開始と同時にあちこちから賑やかな歓声やため息が聞こえ、拍手もパチパチ聞こえて来ました。

ゲームも無事終了し、2階の喫茶店にて食事を摂りながら、表彰



以下10位までに佐藤医院2人が入り、ラッキーナンバー33位は幌南病院の笠原澄子さんが獲得しました。

皆さんカメラマンが前でウロチョ

釧路ブロッツ

平成3年度釧路地方腎友会総会終了する

全道各地の仲間の皆さん、お元気で過ごしですか。

私達釧路腎友会も毎日頑張っています。釧路では、5月12日(日)に定期総会を実施し、新年度へ向けて体制づくりをいたしました。

その時の様子についてお知らせしたいと思います。

当日の午前10時から、釧路市福祉会館に於いて約70名の参加で開催されました。開会に先立ち、この一年間で亡くなられた会員に対して一分間の黙祷を捧げました。

そして、平成3年2月に亡くなられた「故木村俊副会長」のご主人に感謝状と記念品が贈られました。次に、上田弘会長が挨拶に立

ろしたので、日頃の力を発揮出来なかったようですハイ。それでも日頃のストレスを解消出来たようです。

(報告・永田)

ち、医療の後退の現状、腎疾患総合対策の進行状況などについて話されました。

次に、先立って行なわれた道議選において見事当選した伊藤武一道議会議員(釧路会顧問)が、道議会開催中のため出席できないということで、上口市議さんが代わりに見えてお礼を述べられました。

また、全道各地から祝電が届き、私たちを励ましてくれました。

そのあと、釧路市立病院の赤神幸男さんと協立病院の竹内昇さんに議長をお願いし、議事に入りました。平成2年度活動報告、決算報告、会計監査報告と順調に承認されました。更に、平成3年度活

動方針案、予算案と承認されました。最後に、役員改選が行われました。選出方法については事務局一任ということで、事務局から新役員の候補が提案され、会員の承認を受けました。

役員改選の中で、特に上田弘会長が退任し、相談役になったことが大きく変わった点でした。

上田氏が会長をおりたということとで会員の中には驚きが走りましたが、相談役として残るといって一安心するという場面もみられました。新会長は、以前にも副会長として活動いただいたことのある竹内昇さん(協立病院)と決まりました。新役員一同、竹内さんを中心に、これから一年間頑張ることを決意いたしました。なお、上田弘氏には引き続き道腎協の副会長、難病連釧路支部長として活躍いただくことになっておりますのでご安心を。

こうして議事が全て終了し、参加者全員で昼食をとりました。以上が釧路地方腎友会総会の様子です。

年々、透析患者が増加し、週に3回透析を受けたくても2回しか

式が行なわれました。

予想通り佐藤医院が圧倒的に強かったです。

結果は次の通りです。

優勝 三沢紘三(佐藤医院)

312点

準優勝 河村南行(北楡病院)

305点

第3位 桜井宏一(佐藤医院)

294点

第4位 柳沼正一(うえと医院)

290点

第5位 河井弘敏(佐藤医院)

281点

受けられないところができていくと聞きます。

北海道でもそうした報告がなされ始めました。

私たち患者は、一人では何もできないこと、患者会としてまとまっているからこそ強いということ

十勝ブロッツ

すとう病院懇親会

平成3年3月10日(日)、緑ヶ丘温泉サウナにて懇親会を開きました。

確認できた総会でした。

最後に、道腎協をはじめ、全国各地から祝電をいただき本当にありがとうございました。全道各地の会員皆様のこれからのご活躍を祈念し、ブロッツ報告といたします。

(報告：橋本)

開会11時30分より始める。

すとう病院、高山副院長、野原婦長、その他沢田看護婦さん5名様が参加していただき会を催しました。

開会に際し、患者会代表島正吉氏の挨拶、来賓に高山副院長の挨拶があり、乾杯の音頭に小椋富男氏で会食が始まりました。

テーブルには大きい鍋物、アキアジのサシミ、たこの酢物、色々な食べものがあり、飲物類、目にあざやかに映り食欲をおおりました。その間、レーザーカラオケ、ゲームがありました。ペテランの歌斉藤洋子さんの唄から始められ、マイク慣れした野原婦長さんの声

にびっくり、高山副院長の(愛は勝

つ)が会場一杯に響きわたりました。

会長木村氏が身体不調のなか声も息も続かないところ、真剣に歌いこなされたことに一同感謝申し上げます。

会長の奥さんと大森氏とのデュエット曲で会場が賑やかに終りました。

歌った人には、粗品が渡されゲームに入りました。ビンゴゲームは全員に景品が当り、又綱引ゲームには大変な人気で、2組に別れてのゲームです。50回位し、景品の当る人は袋一杯に入り、本年度の

腎友会役員5名が 高橋帯広市長と懇談する

福祉センターの日曜日開館問題、交通費その他について懇談する。

出席者：木村幸雄会長(すとう病院)、新倉氏(西病院)、加藤氏(とかち病院)、松田氏(帯広クリニック)、大沢氏(西病院)以上5名でした。

運勢ともなる大変なぎやかさで無事終了しました。手に手にみかげの袋で楽しく一日を過ごした元気な顔を見ることに、役員はほっとする一日でした。

菊地氏の締めめ三三七拍子ですべて散会し、温泉サウナへと入浴にいき、残った人達で透析者の食事、水分の取り方、血圧の高低の日常の食生活についての話しをし、新患者も参考に聞いている姿が目につきました。

又、明日から元気に通院出来る様に祈るばかりです。

(報告：佐藤武夫)

今回会場問題についてかねがね、会長木村幸雄が今迄役員会総会において、会場がその時その時によって変り役員はもとより会員の不満があり、会長が市長との話し合いで打合せし、日曜日閉館であるセンターを使用させてもらう運動を働きかけて、腎友会の活動も一歩前進した事になりました。



出席者は十勝腎友会四者役員と高橋市長との懇談会のかたちで、約一時間にわたり懇談し決定しました。出席者は木村幸雄会長、加藤氏、新倉氏、松田氏、大沢氏で

した。別紙の通り十勝毎日新聞に掲載され、全般的に関心がもたれた様子です。その他、4新聞社の新聞に掲載されております。

高橋正二館長の出席もあり、役員会、総会等の申込を完了し、5月から福祉センターを使用する事になりました。

(報告・佐藤武夫)

総合福祉センター

日曜開館OK

福祉団体の要望認める

総会や講演会に限って

高橋市長権限で

帯広市は障害者団体・福祉団体から要望の強かった総合福祉センターの目曜日の使用について、団体の総会や講演会に限り使用を認める方針を固めた。二十五日午後、市長応接室で開かれた十勝地方腎友会(木村幸雄会長、会員百五十五人)の「市長と語る会」のなかで市側が明らかにしたもので、基本的には休館に、条例変更をしないで対応する。

この日の語る会には腎友会五人が出席、木村会長が中心に開こうにもコミセンは高橋市長が人工透析を受けて、日曜日は人工透析を受けて、そのうえ、地方の会員に

総合福祉センターの目曜開館を高橋市長に要望した。これに対し高橋市長「民生部次長、総合福祉センター館長は、これまでも福祉団体の要望にこたえ、条例上の市長権限による開館条件をみて対応してきたが、今後これを適応して積極的に要望にこたえたい」とあらかじめスケジューリングのほつきりしている総会や講演会には目曜日の使用を認める方針を明らかにした。同センターの日曜開館については昨年行われた身体障害者福祉協会帯広支部(白木秀雄支部長)との懇談会でも強い要望が出されており、今回、市の意思がはつきりしたことでも気兼ねなく使用できることになる。

このほか腎友会からは市長期透析者が増え体の不自由な人も多くなっているため通院の交通費補助の透析通院に支出された。



多くの悩みが出された腎友会の「市長と語る会」

総会と交流会で楽しい一日

道南ブロック平田腎友会は、5月19日函館市内の湯の川観光ホテルで、平成3年度の定期総会並びに春の交流会（花見会）を実施しました。

総会は、会員47名中、出席者26名、委任状17名の参加で、午前11時から、司会の開会あいさつに続き、平成2年度中にご逝去された



9名の会員の方々のご冥福をお祈りし全員で黙祷をささげ、議事へと進んでいきました。

議事では、(1)平成2年度の活動として、2度の署名活動の取組み、腎バンクキャンペーンへの参加、交流会・新年会の実施等、(2)平成2年度の決算報告、(3)平成2年度会計監査報告、(4)平成3年度活動計画案、(5)平成3年度予算案の順に提案、審議され、その中で会運営にあたり任務の分担化と役員の増員、未加入者へのPR活動と全員組織化へ向けた取組みの強化等の意見が出され、これらの意見を、今後の活動に生かしていくことを確認するとともに、それぞれの案件を全体の拍手により提案どおりに承認し、最後に新しい役員を選出して終了しました。

その後、会場を別室に移し、12時より交流会（花見会）を、総会出席の会員26名に、平田病院長をはじめとする病院職員の方々17名、

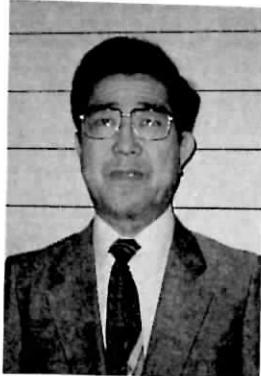
会員の家族8名の参加をいただき行ないました。

桜の花も終わりがけ、少し時期を逸した感もありましたが、そこは「花よりダンゴ」、ホテルの用意してくれた和洋中を取り混ぜた料理に、多少の体重増加は目をつぶるとの院長先生のお許しをいただき、この時ばかりは日頃の透析生活の苦勞も忘れ、飲んで食べてしっかりと食欲を満足させ、会話もはずみずみ。

一般投稿

私の半生記 ②

佐藤道美(室蘭)



何時間目かの授業中に小使さんが来て先生に耳打ちし、先生は私

続いて余興の部へ移ると、カラオケで自慢のノドを披露する人、唄に合わせてダンスをする人と思いに楽しみ、さらに、ホテルのメイドさんが飛び入りで唄や踊りを見せてくれ、その軽妙な口調に場内は爆笑の渦、時のたつのも忘れ、それぞれが楽しい一日を過ごし、明日からの透析もしつかりと頑張っていくことを誓い帰路につきました。

(報告：杉田)

にすぐ家に帰りなさいと言います。私は雪道を急いで帰りました。途中見たこともない白い犬が追って来ます。ほとんど走るようにして家に着きました。

家にはさつき会社にいた父がストーブの前でガックリと肩を落としてうつぶわいていました。家の中は異様な雰囲気でした。

松下の小母さんが私の手を引いてくれ母の所へ行きました。

母の顔には白い布がかぶせてありました。その布を取るとそれよりも白い母の顔がありました。

朝にはあんなに冗談を言って皆んなを笑わせていた母が物も言えなくなつて、ただ目をつぶつて寝ています。小母さんは綿に水をひたしたのを箸で母の唇を濡らしてあげなさいと言つてくれました。

何の事は分かりませんが言つておりにしましたが、後になつてこれが死に水を取ると言うことだと分かりました。

何分にも小学校3年生の子供のことです。何が何だか分かりません。悲しいとか、淋しいとか、そんな気持ちよりも胸の中の心にポツカリと穴のあいたような、やるせない気持ちになつた事を覚えていません。

それは昭和19年3月2日で48歳で黄泉の世界へ帰つた訳です。

葬式には沢山の人が来てくれたようでした。父母は青森の出身でしたので（青森県東津軽郡野内村大字久栗坂宇山辺70番地）青森からも北海道の田舎迄、女の人が2

人来てくれたのを覚えています。

昭和19年のことですので、通夜の時だと思いますが、灯火管制で電球の笠に黒い布を垂らし、灯火が外に漏れないようにした。明かりもまさに通夜のように暗い雰囲気で行われたようです。

母が亡くなつてから続けて母のような年代の小母さんが亡くなつたようでした。

葬式が終わると親戚の人達が帰り始めます。だんだん人が少なくなり、一番下の弟は奈井江の姉の世話になることになり、姉と一緒に出てしまうと父と兄、私とすぐの弟の男ばかりの4人になってしまいました。

本当に暗い家になつてしまいました。父は会社ですし兄は学校の帰りが遅い、私ที่บ้านに帰ってくる。と家の中の畳が斜めになつて沈んでいるような気持ちになつたものです。

4年生になつていた私は少しは家事の手伝いをしていたようです。胡瓜を買ってきたので漬物にしようと思ひ、たしか母はこうやっていたと見よう見真似でスリ鉢に漬けてみました。胡瓜を入れ塩をい

れ、蓋をして小さい重しをのせます。たしかに水もはいつていたと水も少しいれてみました。

父が会社より帰つて来ました。

胡瓜を漬けておいたよと言つて父はおおそうかと言つて見てくれましたが、あれつと言つていつ漬けたかと聞きます。今日だよと言つたと、こんなに水がでる筈がないと言います。いや水も少しいれておいたよと言つて父が苦笑して、水は胡瓜から自然に出るものであつて最初から入れておくものではないと教えてくれました。

父も一人で男の子たちを育てるのは大変だとおもいます。

2番目の姉は母の存命中にお産で亡くなつていたので、残つた姉3人の夫も太平洋戦争に召集されて、それぞれ暮らしていたのですが、室蘭の姉が子供たちを連れて家に帰つてきていた時があります。胸を患つていたらしく冷めないようにと酒を入れたお湯で温湿布をしていたのを思い出します。

どんなにか困つた事情か子供心には分からなかつたのですが、とにかく家に女の人が居るといふことは家の中が明るく落ち着くも

のだということを感じました。

そうこうしているうちに例の8月15日がやってきました。新曲の田舎もすく暑い日で夏休みなのに全員が正午までに運動場に集合しました。ラジオはピーピーガーンでしたが先生方は真剣に聞いていたようで、放送が終了すると若い先生は涙を流して運動場を出ていったので只事ではないとは思いました。その後先生から戦争は終わったということを知りました。戦争が負けたという事よりもその後の教科書に墨を塗らされたのが何ともいえずに変な気持ちにさせられました。

父は母を亡くしたのと男手一つで子育ての苦勞から体調をくずしてしまいました。

父は奈井江の姉の所で静養することになり、一番下の弟と一緒に暮らすことになりました。

私たちは室蘭の義兄が復員していたので3人も一緒に世話になることになりました。

室蘭の姉の家にも3人の子供たちが居ます。ましてや戦後の混乱期食料難の時代です。狭い住宅に余計な者3人を含め8人が暮らす

ことになったのです。

義兄も姉も何から何まで言葉で
は言い表せない程、経験した者で
なければ分からない程、大変なこ
とだったと思います。今の私には
これだけ世話になつていながらも、
とうてい出来ることではないと改
めて感謝の念で一杯です。

その内に奈井江の姉の所で静養
していた父が働けるようになり、
茅沼の姉の親戚の世話で茅沼炭鉱
で働けることになりました。

地元の高校へ行くことになつて
いた兄はそのまま室蘭に残り6年
生になる私と3年生になる弟が父
の働く茅沼へ行くことになりました。
新学期からということでは3月の
末に一日駅に並んで汽車の切符を
やっとなに入れ、兄に連れられて
茅沼に向かいました。

東室蘭駅から長万部、倶知安、
小沢、岩内駅と乗り継いで、岩内
からは船で泊（泊原発の所）まで
船で行く予定でしたが、3月も末
のことであり、当日は吹雪模様で
定期船は欠航とのことでした。

岩内より茅沼まで3里と一寸、
今様にいうと14、15km、車だとあつ
という間の距離ですが、当時は1

里歩くのに約1時間を目安にして
いたものでした。

全然知らない所を3時間も歩く、
増してや吹雪の中です。どうなる
事かと思つたのですが、他の交通
機関があるわけがなし、とにかく
茅沼へ向かつて2本の足で歩かし
かありません。

吹雪の中を3人で歩きはじめま
した。すぐに町並みはなくなりま
す。後は人家のない吹雪の道を歩
くだけです。ただ黙々と歩くだけ
です。途中で海が見えてきました。
鉛色の空と黒い海と荒々しく白く
割れる波飛沫です。

やっとな吹雪が止んでくれました。
雲も切れて太陽が顔を出してくれ
ました。さっきまでの吹雪が嘘の
ようです。

やはり天気がよくなると歩くの
も早くなります。途中小さな川が
あり河原に雪の融けた場所があつ
たのでそこに降りて昼食です。

姉の心尽くしのオニギリにかぶ
つきました。いつもだったらあつ
という間に食べてしまうオニギリ
も、これからの位の道のりがあ
るのか、はたして暗くなる前に着
けるのか、そんな変なことばかり

考えて綺麗な小川に群れをなして
泳いでいる小魚をぼんやりと眺め
ながら、いつまでも食べ終わりま
せんでした。

途中会つた人に道順を聞きなが
らやっとなのことで、まず姉の家に
着いた時には本当にホツとしまし

た。

兄は室蘭へかえりました。

義兄の戦死した姉の家族6人は
近所にいますが、父と私と弟2人
の男ばかり4人の生活がまたはじ
まります。

(つづく)

人生読本生江雅則さんの

お話しを聞いて

滝川クリニック 宮本律子(透析10年)

いつもの朝の習慣でラジオのス
イッチ入れ流れる音楽、ニュース
と頭の中を通りすぎていると言
う毎日です。人生読本生江雅則さん、
イラストレーターで、童謡作者、若
くして全盲になり、現在は週3回
人工透析をしながら、社会活動し
ている方です。とアナウンサーの
紹介をきいてラジオにくぎづけさ
れました。

3回にわたつてのお話しでした。
私は心うたれ、筆を取る気持ちに
なりました。

生江さんは若年性糖尿病にて30

歳で全盲に、一時期は自分の運命
を悲しみ、死まで考えたそうです。
目を使うイラストレーター、絵本作
者で大変悩んだ様です。今は見え
なくなつてから、見えている時よ
り美しい物が晩の奥に見えて来る
そうです。

今は盲人用ワープロを使ってイ
ラストレーターの仕事、童謡絵本は
見えない目で奥様の手助けで作品
に色を重ねて行くそうです。

見えている時より見えなくなつ
てから、より一層、美しいものが
見え、絵を仕上げていくそうです。

又過3回の透析は神があたえた、物を考える事、知識を重ねる時間との事です。二重の障害をもちながら、社会のため皆から喜んでもらう事を考えられるそうです。

個展もひらき、数々の賞もいただいているそうです。又、人生とは人生の道場を、神が人生経験をあたえられたものだ。全盲になり、世界が美しくなってきた。又「宝物」それは人間、友達、愛である。人生の喜びと愛を見る、又愛をあたえる事が出来ると言う、社会から大きな愛をいただいているとのお話に本当に心うたれ涙が流れました。

体が不自由でも今は生き生きと生きていくとの事。又、生江さんは障害者と言う言葉はきらいだとも申しました。

私のまわりにも十人十色といろいろな人間が透析人生を送っています。生江雅則さんの様な方が透析者の仲間（大変失礼ですが）と私はすばらしい事と喜びと尊敬いたします。

病友の足を引っばる人、病友のかげ口、悪口、スタッフのかげ口など、透析をしていただいで今の

命をいただいている事などわすれ、腎友会の協力もせず、社会から大きな愛をいただき生かされている事もありまえの様になっている今日ですが、とても悲しい事です。私も人事でなく何か少しでも社会のお世話になって生かされています。

る事に感謝して、何かの形で社会のやくにたちたいと思うこの頃です。10年過ち、透析も生活の一部ですが、落ち込む事もあります。先生、スタッフの愛のおかげで今日ある事を、かみしめています。

人生読本、生江雅則さんのお話を聞いて、感動し、私自身の生き方を考えて見るためにも、筆を取りました。生江雅則さんの本も絵本も出ているそうですので、手に入れたいと思います。

障害者の日に関する請願署名結果報告

1991・4・30現在

ブロック名		署名数
札幌	幌	460
小	樽	81
旭	川	10
稚	内	0
留	萌	0
道	南	0
苫小	牧	80
室	蘭	0
滝	川	0
十	勝	124
釧	路	130
北	見	76
網	走	40
夕	張	14
紋	別	0
岩	見	40
江	別	0
浦	河	39
根	室	17
千	歳	0
深	川	20
合	計	1,131

国際障害者年10周年記念行事として、国際障害者年日本推進協議

会と連携して、12月9日を障害者の日に制定し休日とする国会請願

署名に取り組みました。

全道の会員の皆様が、熱心に運動を進めた結果は以下のとおりです。

会員の皆様のご協力に厚くお礼申しあげます。

エコロジーとは？

どうじん33号の原稿に、北見の佐藤清美さんが送ってくださいました、エコロジーとはいったい何でしょうか？

佐藤さんより、エコロジーについてのパンフレットをいただきました。いくつか抜粋してお載せいたします。

今回は紙面の関係上、ゴミを減らすという事について20の方法を載せます。



ゴミを減らす

WASTE REDUCTION / RECYCLING

現在日本人一人が毎日に出すゴミの量は約1kg。石油ショック以降横ばいだったのが1983年を境に増大に転じ、その後急カーブで増え続け、各自治体はどこも最終処分場の確保に苦慮しています。ゴミの中味もブ

ラスチックやガラス、あるいは紙とプラスチックを組み合わせた商品など処理しにくいものが増え、環境への影響が懸念されています。ゴミの減量化には、企業、行政、そして市民が手を組み、減量化への仕組みづくりをすることが必要ですが、私達の身の回りのことで改善できることも沢山あります。ちよつと気をつかってみることでゴミを減らすことにつながるのです。

- 1 使い捨てのコップやペーパータオル、ナプキンなどは使わない。
- 2 割り箸は使わず、外出時には、箸をもちあるく。
- 3 ビール、ジュースなどを飲む場合は、缶入り、ペットボトルのものは避け、リサイクル可能なビン入りのものを飲むようにする。
- 4 茶と緑以外の色つきの瓶はガラスくずとしても回収されずに、そのまま埋め立てられてしまうので、なるべく避ける。
- 5 ティッシュペーパーはけちけち使う。手の届く所に置いておくと、つい使ってしまうので、置き場を工夫する。
- 6 トイレトペーパーは再生パルプで作ったものを選ぶ。
- 7 紙オムツはなるべく使わず、布オムツを利用する。
- 8 紙は裏も使う。また小さな紙でもリサイクルに出すようにする。
- 9 コピーやOAのプリントアウトは必要最小限にとどめる。
- 10 なるべく再生紙を使うようにする。
- 11 買い物用の袋を持って歩く。スーパーなどでくれる袋はもらわないようにする。
- 12 不必要な包装は断る努力をする。
- 13 衝動買いをしない。買う前に、本当に必要かどうかもう一度考えてみる。普段あまり使わないものは借りる。
- 14 長持ちするものを買う。またより長く持つように、手入れをする。
- 15 リサイクル商品や、リサイクル
- 16 捨てる前に修理可能かどうか確かめる。可能ならば修理して使う。
- 17 リサイクルできるものは出来るだけ友達に声をかけ、リサイクルするようにする。
- 18 地域のゴミ処理システムについて調査し、リサイクルによるゴミ減量化が充分行われているかを点検する。
- 19 ゴミの分別、リサイクルをしていない地域、あるいは不十分な地域は、行政にその推進を働きかける。
- 20 焼却炉等、ゴミ処理施設の建設については、リサイクルによる減量を大前提として立案、施行するように働きかける。

(地球を救う127の方法
日本版より)

道腎協新事務局員です



此度、新しく事務局員になりました田島理架子と申します。

早いもので、道腎協の仕事に携わるようになって早、2ヶ月が過ぎようとしています。

私の母親が約9年前に、突然倒れ診療の結果、腎不全と宣告されました。すぐ入院となり、腹膜灌流の手術をして、体力の回復を待つてシャントの手術をしました。初めの内は、透析に慣れずほとんど寝たきりの状態が続きました。

その当時私は、社会人になったばかりで、妹もまだ学生でありました。母に変わって家事を切りもりしておりましたが両立は難しく、やはり家庭を一番と考え、退職にいたしました。

母の体も透析に慣れ、ある程度家事も出来るようになったので、私自身いつまでも無職でいる訳にもいかず、仕事を探しておりましたが、なかなか自分の特技を生かせる職業もなく、何度か会社訪問をしたのですが、採用されず、家事手伝いという状況にありました。所、鈴木副会長のお口添えがあり、お話を伺ってみて多少なり自分の経験を生かせると思い、お仕事をさせていただく事になりました。

憶える事が沢山あり、毎日、失敗の繰り返しですが、一日も早く仕事に慣れ、少しでも皆さんのお役に立てるよう、がんばっていきたいと思います。

なお、勤務時間は、月々金、朝10時～午後4時までです。土、日、祝日等は休みです。休み、または外出している時は留守番電話がお受けします。よろしくお願ひいたします。

「表紙の写真」

すとう病院の裏に庭があります。駐車場から庭園を通り病院に入ります。庭を見ながら透析室へと心が休む場ともなっております。毎年秋に手入れされ、春には元気に緑の色に染められ、患者もいきいきとなる庭でもあります。

佐藤 武夫

■おくやみ

池田 利男さん(道腎協幹事)

平成3年4月10日逝去されました。留萌水無人地方腎友会会長であり、道腎協の幹事を昭和60年より務め、長い間会活動にご尽力されました。65歳でした。ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

● 気候が良くなり、外へ出る機会が多くなる今日この頃です。

先日、芝桜の写真を書しに紋別郡滝上町まで、一泊で行って来ました。山一面がピンク一色に染り山にソボロをかけた様に見える、とても美しく、心が洗われる様でした。(永田)

● 来年五月に札幌で開催される全腎協総会の勉強を兼ねて、五月二十五・二十六日と東京での総会に初めて参加させて戴きました。

参加者の熱気や地元会員の真剣な接待ぶりを見て、感銘をうけ、来年への気持ち更新にしました。(村本)

● 全腎協記念総会も無事終了し、次回はいいよ北海道である。皆さんの協力なくては成功は考えられません。多数のボランティアお待ちしています。(川村)

● 昼間と夜間の気温の差が厳しく、カゼが流行しています。私も2週間程微熱が続きました。皆様はお体の調子は如何ですか？(堀井)



clinical foods

森永低リンミルクL・P・K

—— 使いやすく、飲みやすいミルク ——

腎機能に障害のある方(特に透析患者の方)に適しています。

(低リン、低カリウム、良質な乳蛋白質、
カルシウム、鉄増強)



●お問い合わせは、森永乳業(株)札幌支社栄養食品販売課
TEL011-865-2821

※ご使用は専門医のご指導に従ってください。

低リンミルクL・P・Kを利用した献立

その①

低リンミルクもち …… おやつや透析前の栄養補給としてどうぞ!

材料一人分

ごはん(やわらかめ)	95g
低リンミルク	20g(1本)
でんぶ	5g
白玉粉	5g
砂糖	5g
塩	0.25g

- 全部を混ぜ合わせ、おもちをつくようにつぶし、好みの大きさに形づくり、網またはフライパンで焼く。
- 付けだれとして、すりゴマ、砂糖、正油を適量混ぜてつけていただく。



低リンミルクL・P・Kを利用した献立

その②

和風ハンバーグ …… たくさん作って、フリージングしておくとお便利!

材料一人分

合挽肉	50g
ロールイカ	20g
玉ねぎ	20g
低リンミルク	10g(1/2本)
卵白	15g
減塩正油	1g
塩	0.3g
こしょう	少々
パン粉	5g
サラダ油	5g
付正油減塩正油	7.5g

- 玉ねぎは、みじん切りにして、水に漬けておく。30分漬けたら炒める。
- ロールイカは、皮を取り、メンチカッターであらかじめミートしておく(スプーンで削いても良い)低リンミルクは、粉のまま、他の材料と良く混ぜる。手に油をつけて、ハンバーグの形を整え、フライパンに油を熱し、両面を焼く。
- 少々、柔らかめになるので、火加減に注意。



昭和四十八年一月十三日 第三種郵便物認可
平成三年六月十日発行(毎月十日発行)

H
長通巻三三〇号

発行所

北海道身体障害者団体
札幌市北区北十三条西
目録

神原義郎

頒価三百円